羽陰史略

元禄十六年

九

内閣文庫
和書類
三五八八四號
一〇冊
一五一函
九架
(九冊)

60
閣

史
四七

内閣文庫		
番號	和 35884	
冊數	10(	9)
函號	151	99

国立公文書館
National Archives of Japan

羽陰史略

元禄十六年

九

閣 6

日本政府図書
内閣文庫

元禄十六癸未年

正月二日御登営御太刀馬代御献上三日之御
奈良臺押御酒代而献上恒例之通

一 三月朔日源姫様御逝去 御母布施氏知清院殿ト称ス江戸橋場総泉寺ヘ葬御法名円覚院殿性智童女 御七歳

一 四月朔日千代丸様御名改源次郎義格公ト称
又今日大樹綱吉卿ヘ常憲院様始テ御目見 于時御十歳

一 五月十四日義處公御帰国御暇上使トメ稲葉
丹後守殿ヲ以銀五百枚御時服五拾御拝領

一 五月十六日義處公江戸御發駕同二十二日奥

一州本宮ノ駅ニ御止宿之所夜中ヨリ御不例ニテ
翌廿三日御快候旅行被遊雲ニ同廿八日院内ヘ
被為入湯沢ニ御止宿廿九日横手ヘ御移御不
例被為重候滞留之儀久保田ヘ告来六月朔日
夜東中務同本又右衛門久保田出足横手ニ到ル
ヨウラ御家中ヨリ御祈祷仕差上度旨願奉町ニ
ヨリ御守札御會所ヘ差上御家老梅津半右衛
門宅ニ御家中之諸士毎日相越候機嫌ヲ窺奉
昨日ノ御容躰書ヲ翌日高見仕且半右衛門病
人ニ付宇都宮帯刀御會所ヘ出席ニ仰付

一六月六日江戸表ヘ御医者御願トシテ杉塚角
右衛門被差登所井関正伯老御下同廿日候着
同十三日御臨自候願トシテ江戸ヘ渋江内膳ヲ
差登

一同十七日当十四日ノ御奉書横手ヘ相達右候礼
トシテ小瀬総殿助（伊信様手ニ詰ス）江戸ヘ被差登

一同廿二日壱岐守義長公御下国ノ御暇ニ而済横
手ヘ御着

一同廿三日義処公御養生不被為叶横手ニ於テ候
逝去 酉刻御休所ニテ候逝去候年六十七 候法名徳雲院殿
不山宗見大居士

一 井関正伯老即日江戸へ御帰府
一 同廿四日壹岐守様江戸へ御登
一 御逝去為御知トシテ石塚主殿江戸へ登
一 廿四日御家中へ左之通被仰渡
屋形様御氣色御養生不被為叶終ニ廿三日酉
刻御逝去之由ニ以御飛脚申来候依之於横手
壹岐守様中務又太郎與左衛門被差添被仰
渡候ハ御養生御尽御逝去ノ上ハ無是非御
事ニ候此上御遠之御支ハ大切ノ儀ニ候兼而
御定ノ儀ハ大法有之候ニ付間ハ家中何モ格

悟可仕事ニ候得共万一殉死ホ有之候而ハ御
遠目之御為ニ不相成候間堅停止可仕候旨
被仰出候由申来候處許ニ而モ何モ其旨ホ達
得ト申候猶此御自分之意趣ホ有之候共尤
致延引子細於有之ハ追而可申立候自然家
中出入有之候而ハ大目御代継之御為ニ不相成
支ニ候間何モ此旨ヲ可存候支配之面々支
配江茂可申渡候以上
六月廿四日
一 同廿六日御尊骸天徳寺江御着棺附添北主計

一當日ヨリ御家老壱人宛相手并壱人寺社奉行
壱人代ルヽ天徳寺ヘ詰ル御仏殿廻并宛小性詰ル
一同七日御荼毘　御導師天徳寺十七世善鑑
一七月二日於江戸宛悔上使トシテ御奏者本多弾
正少弼様宛出御香奠銀三百枚御拝領
一同十八日御葬式色衣着ノ面々ハ重役ノ面々宛側
廻太小性宛小性迄ハ福し高下ニヨラス着之大
番組ハ高百五拾以上ハ着之其以下ノ役ニ與カル
面々一ハ以下之
一同十九日於天徳寺大御法事宛執行

一同十一日御老中御連名之宛奉書到来ニ付翌
十二日義格公壱岐守義長公式部少輔義都公
宛同道土屋相模守様宛宅ニ而御出候所阿
部豊後守殿土屋相模守殿小笠原佐渡守殿
秋元但馬守殿稲葉丹後守殿各御老中御列坐大
御目付近藤備中守殿出席土屋相模守殿宛用書被
仰渡趣ハ
同氏右京大夫遺領無御相違被仰出候
一御遺領無相違被仰出候趣同十八日秋田へ着御
家中へ被仰知

一八月十九日義格公御忌明ニ付御老中之御側御用
人若御老中江御回勤アリ今日ヨリ屋形様ト可奉
称之旨ニ而被仰渡 此段注之ハ八月廿六日御記録 若御年寄中ヘ之御知
一同廿七日御老中御連名之御奉書到来明廿八
日五ツ時御登城御家督之御礼被仰上之候且家来
七人御目見被仰付候旨御達ニ付別紙之通
一同廿八日佐竹淡路殿昨日ヨリ病気ニ付今朝御
届左之通
今日之 上使御家来七人之内佐竹淡路儀昨晩
ヨリ相煩今朝俄ニ不快ニ付不罷出候依之

御判中上使之口上
八月廿八日
佐竹源次郎
右御当日秋元但馬守殿ヘ下山田新四郎ヲ以テ差出之御用書ト云フ差出シ候ニ付右玄関ニテ大須賀持守殿ヘ差出し
一今朝御家督御礼トシテ義格公 十一歳于時 御登城 浅黄
御帷子長袴 佐竹右衛門佐竹中務佐竹六郎戸村十
大夫渋江内膳梅津半右衛門 浅黄帷子長袴之 御先ヘ
登城御留守居武藤七郎兵衛同道閣ノ間ニ詰
義格公御礼相済右之面々七人元之所ヘ出 以方様
ヘ御目見御披露御奏者番
此節御献上左之通

公方様江

真御太刀　順弘　代金五枚

御馬代　黄金五拾枚　包御熨斗

綿　三百把　包御熨斗白木台三

御簾中様江

白かね　五拾枚　包熨斗　附台　目録台

一位様江

右同　同　同断

鶴姫君様江

縮緬　二十巻　包のし白木台

一干肴　一荷

一白銀拾枚　台ニ乗セ包熨斗　右衛佐殿

一同五枚　大典侍殿

一同断　新典侍殿

一白かね五枚　包のし台ニ乗セ　山野井との

一同五枚　同　高瀬との

一同五枚　同　松江との

一白かね三枚　同　長浦との

一同三枚　同　おきよとの

一同三枚充　包のし銀台　表使衆四人

一御目見之節御一門御家老献上左之通

一御太刀一腰　　　　　一門　佐竹左衛門　義命
一御馬代銀三枚充　　　同　佐竹中務　義秀
一御時服二充　　　　　同　佐竹六郎　義方
　　　　　　　　　　　同　戸村十大夫　義般
　　　　　　　　　　　　　初義躬般ニ更ム
一御太刀一腰　　　　　家老　渋江内膳　處光
一御馬代銀三枚充　　　同　梅津半右衛門　忠貽

外ニ御家老督御祝儀トシテ所々名御進物左之通

一御太刀金馬代　　　甲府中納言様へ
一右同断　　　　　　徳川封山様へ
一右同断　　　　　　紀伊中納言様へ
一縮緬拾巻　干鯛三箱　　安宮様へ
一御太刀金馬代　綿百把包熨斗　箱肴二種　御樽代千疋　　御大老　松平美濃守様
一右同断　　　　　　同　秋元但馬守様
一御太刀金馬代　綿百抱把　　同　阿部豊後守様
一右同　　　　　　　左　土屋相模守様
一右同　　　　　　　右　小笠原佐渡守様
一右同　　　　　　　同　稲葉丹後守様

一 右同

一 御太刀
金馬代
縮緬廿巻充

一 御太刀
金馬代
蝋燭廿目掛 三百挺充

御側御用人 松平右京大夫様
若年寄老中 井上大和守様
同 加藤越中守様
同 本多伯耆守様
同 稲垣対馬守様
御側衆 藤堂伊豫守様
水野肥前守様
青山伊賀守様
安藤信濃守様
嶋田丹波守様

一 御太刀
金馬代
紗綾五巻充

水野飛騨守様
御奏者番 大久保長門守様
久世出雲守様
田村右京大夫様
三浦壱岐守様
黒田甲斐守様
松平[illegible]様
三宅備前守様
青山播磨守様
松平兵庫守様

一 右同

一 御太刀
金馬代
鰹節二百入 二束充

寺社奉行
池田丹波守様
永井伊賀守様
阿部飛騨守様
本多弾正少弼様

御留守居年寄
大久保玄蕃頭様
溝口摂津守様
松平主計頭様
一柳土佐守様
井戸対馬守様

大目付
仙石伯耆守様
安藤筑後守様
近藤備中守様
柳井淡路守様

町奉行
松平伊豆守様
保田越前守様
丹羽遠江守様

御勘定頭
荻原近江守様
久貝因幡守様
戸川肥前守様
中山出雲守様

一 御太刀
金馬代
鰹節百入 三束充

一 右同

一 右同

一 御太刀
金馬代
鰹節 百入壱箱宛

一 右同

一 御目付衆壱人江
御太刀
金馬代

御作事奉行
小幡上総介様
松平傳右衛門様
大嶋伊勢守様
御普請奉行
奥田八郎右衛門様
甲斐ノ庄喜右衛門様
多賀権十郎様
御目付衆
久留島十右衛門殿
布施孫兵衛殿
鈴木源左衛門殿
多門傳八郎殿

長田喜左衛門殿
大久保勘兵衛殿
阿部式部殿
渡辺伊左衛門殿
堀田源左衛門殿
長田弥左衛門殿
久松忠次郎殿
松田五左衛門殿
鈴木次郎左衛門殿
柴山三郎左衛門殿

一　右同

前嶋太郎左衛門様
柳原八兵衛様
弱右根七三郎様
柳澤八郎右衛門様
伊勢彦八郎様
百人組頭
山崎半左衛門様
安藤彦四郎様
横田彦右衛門様
杉浦内蔵允様
神保主税様

一　二種代弐百疋
御樽代五百疋ツヽ

一　二種代弐百疋
御樽代五百疋宛

一　御肴代百疋
御樽代弐百疋ツヽ

一　御太刀金馬代
蒸肴一種

御大目付
道中奉行
飯高七左衛門様
小宮山長次郎様
米沢梅之助様
美濃部権之助様
松下権兵衛様
御金奉行
都筑小三郎様
小泉市太夫様
諸星清左衛門様
久保七郎左衛門様
御儒者
林大学様

一 銀五枚
茶肴一種

一 御太刀金馬代

一 銀五枚
干肴一折

一 右同

一 銀三枚

一 銀五枚
干鯛一箱充

一 右同

御代官
伊奈半左衛門様

御馬方
諏訪部文九郎様

御鷹不役
坂入半七様

御鷹方衆
小川吉右衛門様

御普請衆
小林宗右衛門様

御同朋衆
原田順阿弥様

伊藤道阿弥様

長倉珍阿弥様

御表坊主衆
野村休盛老

鈴木林碩老

一 銀三枚
干鯛一折充

表坊主衆
鈴木宗清老

同
江間永味

同
吉田傳悦

同
実本宗覚

鈴木文斎

寺町友三

御数寄屋坊主衆
田嶋宗栄

後藤正悦

大沼休嘉

熊谷宗伴

一 壱人ニ付 銀五枚宛

一 壱人ニ付 銀三枚干鯛一折宛

一 壱人ニ付 銀五枚ツヽ

一 壱人ニ付 金三百疋ツヽ

岡田貞俊
鈴木一斎
横中松伯
表坊主元 拾七人
御徒目付之頭 拾壱人
御小人与頭 伴興兵衛
横貝治兵衛
藤田金左衛門
鈴木伝十郎
鈴木発作十郎

一 壱人ニ付 金三百疋ツヽ

一 壱人ニ付 同断

一 御太刀一腰 御馬代 黄金拾両

一 右同

一 右同

一 右同

一 御太刀 金馬代 紗綾拾巻

御雲寄 御小人三拾人
同拾弐人 御出入
中奥御番 同断拾六人
上野 御宮江御進献
御仏殿江
同廿八日 御仏殿江
同 増上寺方丈江
東叡山 御門主様江

一 銀五枚　護国寺へ
一 同拾枚　増上寺へ
一 右同　上野執当　護持寺へ（院カ）
一 同五枚　住心院へ
一 右同　同　願王院へ
一 右同　同　慈雲院へ
一 銀三枚　護法院へ
一 右同　東漸院へ
一 右同　津梁院へ
一 同五枚　上野ノ岩房　元光院へ

一 同三枚　増上寺御仏殿別当　恵眼院へ
一 右同　同山ノ岩坊　宝樹院へ
一 同弐枚宛　大御番与頭　天野九郎兵衛
　蒔田源左衛門
一 同弐枚宛　浄宗　甲斐庄三平
　佐藤小右衛門
一 同弐枚宛　町与頭　磯貝藤兵衛
　同　治太夫
　吉田重郎兵衛
　樋口次郎左衛門

一 金三百疋
一 銀弐枚
一 銀弐枚充
一 日断
一 金五百疋
一 銀弐枚

町奉行所当番 吉川新兵衛
黒川彦右衛門
御普請方 酒井平右衛門
足軽与頭元 九人え
火消与力 和田文蔵
御馬責 林藤兵衛
同 小田所右衛門
同 市川七郎兵衛
同 金子助太夫
遠藤才兵衛

一 金三百疋つゝ
遠国御役人
一 御太刀金一両代
紗綾 壱巻充
一 御太刀金馬代
一 御太刀金一両代
一 御太刀金馬代
紗綾 壱巻
一 御太刀金馬代
一 右同
御家門様方御出入流芳院 去二

太田平四郎
一 安藤少右衛門
京都所司代 松平紀伊守様
京町奉行 安藤駿河守様
同 水谷信濃守様
大坂御城代 土岐伊豫守様
日光奉行 牧野河内守様
太田善太夫様

一 御太刀金馬代
松平越後守様

一 御太刀金馬代
昆布 一箱
御樽 一荷
松平備前守様

一 干鯛 一箱
昆布 一箱
御樽代五百疋
相馬弾正少輔（弼）様

一 右同
同 奥様江

一 御太刀
金馬代
同 菊千代様江

一 御太刀金馬代
干鯛 一箱
昆布 一箱
御樽 三荷
黒田甲斐守様

一 御太刀金馬代
干鯛 一箱
昆布 一箱
御樽代五百疋
同 隠岐守様

一 右同断
岩城伊豫守様

一 御太刀
金馬代
同 采女様

一 御太刀金馬代
鰑 一箱
昆布 一箱
干鯛 一箱
松平出羽守様

一 御樽代五百疋
昆布 一箱
同 奥様

一 右同
天祥院様

一 右同
松平上野介様

一 御太刀金馬代
干鯛 一箱
昆布 一箱
松平隼人正様

一 右同　　同　志摩守様

一 御太刀
　金馬代　　松平民部大輔様

一 御太刀金馬代
　錫一折 昆布
　御樽壱荷　　松平大和守様

一 御太刀金馬代　　小笠原備中守様

一 御太刀金馬代
　錫一折 昆布
　御樽壱荷　　藤堂佐渡守様

一 御太刀金馬代
　干鯛一折昆布　　同　正助様

一 御太刀金馬代　　久留嶋出雲守様

一 御太刀金馬代　　同　数馬様

一 右同　　牧野備前守様

一 右同　　戸田能登守様

一 右同　　同　土佐守様

一 右同　　大澤越中守様

一 御太刀金馬代
　干鯛一折
　三種五樽挑
　御樽壱荷　　松平大膳大夫様

一 御太刀金馬代
　錫一折 昆布
　御樽代五疋　　松平左兵衛様

一 御太刀金馬代　　同　内膳様

一 御太刀金馬代
　鯛一折 昆布
　御樽一荷　　津軽越中守様

一 鯣一折
昆布一箱
御樽代千疋　喜連川左兵衛様

一 鯣一折
昆布一折
御樽代五百疋　松平土佐守様 奥様へ

一 御太刀金馬代　三枝日向守様

一 右同　能勢市十郎様

一 御太刀金馬代　荒木十左衛門様

一 右同　神尾左兵衛様

一 右同　同 備前守様

一 右同　同 五郎兵衛様

一 右同　細井左次右衛門様

一 右同　土屋忠兵衛様

一 右同　西尾小左衛門様

一 右同　井出太左衛門様

一 右同　松平彦三郎様

一 干鯛一折
昆布一箱
御樽代千疋　小笠原長門守様

一 右同　蜂屋七兵衛様

一 右同　天野長三郎様

一 右同　小笠原兼右衛門様

一 右同　大岩治右衛門様
一 右同　加々爪治郎右衛門様
一 右同　小堀治郎右衛門様
一 右同　梶川三之丞様
一 右同　石尾織部様
一 右同　川崎権之助様
一 右同　本多市左衛門様
一 右同　大関主税様
一 右同　小堀卿九郎様
一 干鯛一折 御樽代壱疋　稲生下野守様

一 右同　村越頼母様
一 右同　布施長門守様
一 干鯛一折 昆布 同樽代壱疋　三枝日向守様奥様
一 銀五枚 干鯛一折　今大路道三老
一 右同　井関正伯老
一 右同　小嶋昌意老
一 右同　吉田一庵老
一 右同　岡宗三老

一 右同
一 銀三枚 干鯛一折
一 同
一 銀三枚 昆布
一 銀拾枚
一 同五枚
一 銀三枚
一 右同
一 右同
一 右同

三宮検校
馬島瑞庵老
原田玄昌老
東暦
深川 覚玄院
上野 三諦院
橋場 総泉院
下谷 宗雲院
谷中 西光寺
深川 彌勒寺

一 右同
一 右同
一 右同
一 右同
一 銀弐枚
一 右同
一 右同
一 右同
一 右同
一 右同

本庄 東江寺
同所 興楽寺
下谷 白泉寺
日光 実教院
金杉 世尊寺
鳥越明神別当 長元寺
護持院之内 寿命院
鈑林 龍泉寺
増上寺内 慈因
鳥越明神別当 鎌木對馬

内閣文庫

一 右同

一 金五百疋

一 鯣一箱

一 昆布
御樽代銀五枚

神田明神之主
芝崎宮内

同所
同苗主計

西本願寺

一 徳雲院様御遺物左之通

公方様え

一 御刀 来国光 代金百五拾枚

一 松前肩衝御茶入 代金百五拾枚 極有

御簾中様え

一 古今集 後花園院御宸筆 代金五拾枚

一 位様え

一 和漢朗詠集 御軸物二條為重卿筆 代金三拾枚

露姫君様え

一 御屏風壱双 永徳筆 代金五拾枚

右之通御献上

日光御門主様江

一三幅對　中尊釈迦　左文殊　右普賢　張思恭筆　代金廿五枚

徳川封山様江

一二幅對　虎　龍　周山筆　代金拾五枚

一御刀　備前兼光　代金廿五枚　紀井中納言様江

一御刀　延寿　代金廿五枚　御側御用人　松平美濃守様江

一歌書　栄花物語　代金廿五枚　御同人様奥様江

一御刀　雲次　代金拾五枚　美濃守様子息　松平伊勢守様江

一御刀　一文字　代金拾枚　同所　同　伊織様江

一御刀　国行　代金拾枚　同所　同　左門様江

一御刀　延寿国実　代金拾五枚　御側御用人　松平右京大夫様江

一御刀　大和志津　代金拾五枚

一飛鳥川御茶入　代金拾三枚

一八景手鑑　啓書記筆　代金廿枚　御老中　秋元但馬守様江

一御刀

一朝日青磁御茶入　代不知

一御屏風　雪舟筆　御老中　土屋相模守様江

一御刀　高綱　代金三拾枚　土屋采女様江

一御刀　吉国一文字　代金七枚五両　御老中　土屋左京様江

一 御刀 鹿嶋 代金拾五枚　同　阿部豊後守様江

一 御刀 行光 代金百両　同　稲葉丹後守様江

一 御刀 末左文字 代金百両　同　小笠原佐渡守様江

一 御刀 後ノ伊宗 代金拾枚　佐渡守様御息　同 津八郎様江

一 御刀 中嶋来 代金拾枚　本庄安芸守様江

一 御刀 清景 代金百両　但馬守様御息　秋元伊賀守様江

一 御刀 鹿嶋　若年寄　稲垣対馬守様江

一 御刀 了戒　同断　加藤越中守様江

一 御刀 為清　同断　本多伯耆守様江

一 御刀 了戒　同断　井上大和守様江

一 御刀 兼光 代金廿枚　松平紀伊守様江

一 御刀 長光 代金七枚五両　黒田甲斐守様江

一 御刀 備前兼光 代金拾枚　黒田隠岐守様江

一 御刀 和州包永 代金拾五枚
黄茶眉衛　岩城伊豫守様江

一 御脇指 行光 代金七枚七両　同 采女様江

一 御刀 左弘安 代金三拾枚　相馬圖書頭様江

一 御脇差 則重 代金拾枚　同 菓子代様江

一 御刀 備前兼長 代金三十枚

一 柳燕繪一幅　壹岐守様江

一 御中脇差 備前助真 代金七枚七両　求馬様江

一　御刀　左弘安　代金拾三枚　　式部様江
一　二幅対　紅白川芙草花絵　代金二十枚
一　御脇差　三原　代金五枚　　主膳様江
一　御刀　志津　代金三枚　　神尾左兵衛様江
一　御刀　平安城永吉　代金同　　細井左京亮様江
一　御刀　宇家　代金同　　西尾小左衛門様江
一　御刀　千寿院　代金同　　土屋忠兵衛様江
一　御刀　宇津国宗　代金三枚　　井出左京亮様江
一　御刀　波平　代金同　　能勢市十郎様江
一　御刀　青江　代金同　　荒木十左衛門様江

一　御刀　辰房　代金同　　三枝日向守様江
一　御刀　嶋田助宗　　松平甚三郎様江
一　御刀　継定　代金同　　甲斐庄喜右衛門様江
一　御刀　法城寺　代金六枚　　萩原近江守様江
一　御刀　一文字　代金廿五枚　　今井源四郎様江
一　御刀　代金三枚
堆朱彫人形香合　代金五枚　　神尾備前守様江
一　唐物古銅花入　代金廿枚
御硯箱　唐子青貝　代金七枚　　松平越後守様江
一　住吉御花入　代金五枚
堆朱加彫箱　　酒井雅楽頭様江
一　中フクラ小紋四国花入
堆朱香合　　戸田能登守様江
一　二幅対　恵崇ノ絵　　津軽越中守様江

一 養由絵一幅　李安忠筆
一 二幅対　紅白川筆草花
一 達磨絵一幅　雪舟筆
一 唐官女絵一幅
陽成御花入
一 三幅対　山水 太公望 山水　代金三枚
一 人丸絵一幅　土佐筆
後撰集　河内守入道宗音筆
一 鳳凰絵　金昌見筆
一 二幅対　恵宗筆唐絵
一 林良筆鷺絵一幅
一 呂紀筆鯉絵一幅　代金七両

牧野備後守様ゟ
松平備前守様ゟ
松平右衛門様ゟ
小笠原備中守様ゟ
久留嶋数馬様ゟ
松平大蔵少様ゟ
松平志摩守様ゟ
藤堂和泉守様ゟ
松平民部少輔様ゟ
神尾斎兵衛様ゟ

一 林良筆松竹梅一幅　代金五枚
一 国之丸筆一幅（本ノ但馬之晃力）
古今和歌集　連歌師兼載筆
一 二幅対　呂紀筆花鳥
一 三幅対　達磨　探幽筆
唐物沈金　食籠
一 四幅対　琴棊書画　仇英筆
伊勢物語　兼載筆　代金弐枚
一 観音絵一幅　明兆筆　代金拾枚
流芦御茶入袋
一 新古今集　実昭　代金三枚
御硯石　代金弐両
一 伊勢物語　近衛尚通筆　代金七枚
一 堆朱御香合　代金七枚
青磁御香炉
一 御硯箱　青貝

松平隼人正様ゟ
天野長三郎様ゟ
松平出羽守様ゟ
藤堂主膳様ゟ
松平弾正少弼様ゟ
松浦壱岐守様ゟ
相馬弾正様奥様ゟ
松平出羽守様奥様ゟ
天性院様ゟ
松浦誠信様ゟ

一 御茶入 彦羽手 代金廿五
御茶碗 高麗 代金三枚
小将昌悦さへ

一 幅物 近衛翁山卿 君子ゟ 代金六枚
御花入 唐物 ヒシカタ
横田平右衛門様へ

一 唐物 重文庫 代金卅枚
一幅物 ソゝしゝ 瀟湘 陽威院御筆 代金五枚
仙田伯耆守様へ

一 一幅 梅二ツ 探幽筆
十六夜ノ茶入 箔入
小林佐右衛門様へ

一 破風手御茶入 代金卅枚
堆朱 岩人形香合 代金五枚
安房筑後守様へ

一 青貝 加羅箱
玉手ノ茶入 金五両
無川ノ茶碗 代銀卅枚
井関正伯老へ

一 青磁ノ花入 すわり 代金三枚
稲生下野守様へ

一 御茶入 代銀六枚 代金卅枚
小笠原長門様へ

一 鳳凰絵 土岩水筆 代金百疋
砂張ノ香炉 獅子
尊寿院様へ

一 御香爐 唐物 牡丹獅子
同青磁 ヒシカタ
中院大納言様へ

一 堆朱御硯箱 代金三枚
青貝ノ香合 同卅枚
高倉宰相様へ

一 唐絵 子昂筆
カンコノ香爐 代金五枚
今大路道三老へ

一 文珠絵 雪舟筆 代金拾五枚
三蹄院へ

一 羅漢絵 張思恭筆
弘経寺へ

一 芋子ノ種ノ茶入 代銀
唐物 蓮葉花入
雲龍ノ香爐
元光院へ

一 御刀 志津 代金五枚
久留島出雲守殿へ

一 御刀 盛景 代金五枚
松平肥後守殿内 藤田右衛門へ

一 御刀 宇津 代金三枚
御同人殿内 平野源兵衛へ

一 御刀 宝寿作 之振
一 御茶入 銘白岩寿茶
一 金拾枚
一 銀拾枚
一 同拾枚
一 金子
一 歌書 小倉名筆 作者揃弐枚
一 御硯箱 梨子蒔絵内梨地
一 金拾枚
一 同断

御同人様以下
川口平吉殿へ
黒田甲斐守様へ
永井源四郎殿
御母儀へ
東江寺へ
西光寺へ
宗雲院へ
おゑり殿
おてる
永井源四郎殿
御内方
青海守様
奥様

一 同断
以上
右元禄十六未十月ト在
式部少輔様
奥様

一 九月二日御用番阿部豊後守様御用人を呈
御當宅在之中談候儀有之間一両人之内罷来
候ニ付小川新右衛門推出候処秋田ノ御
目付被差下候処御書付を以被渡候
領内ニ而為御目付斎藤治左衛門戸田三郎兵衛を
被仰付候旨可申旨趣候

九月

御使番千七百石
斎藤治左衛門
御書院番六百石
戸田三郎兵衛

右之趣御書付御用人を以被相渡候ニ付申上候処
早速為御請豊後守殿へ御使者を以差出
申ニも為御礼御使者を以御進 松平美濃守殿
松平右京大夫殿ニも同断 此度ハ御國目付
衆へ茂御使者を遣

但御印年之付御格之通御両人衆御目付
へ御付也

一 九月五日両御国目付衆ヨリ左之趣御書付を以
被相渡候

覚

一 今度秋田右京大夫秋田へ差越候付於彼地侍屋敷之内無人
之住居仕候間隔り候而不申付様ニ住居候所新築之
儀ニ付候由承り候而差留可申候

一 我等儀御用之節為見分被遣候ニ付申候
何ニ而も上納等之儀ニ付御料所御領内并除

右之趣有泉ゟ通達ニ付付
写し於来
右之通名之御渡ニ相成候至而手重ニ而御代官
九月五日
三田三郎兵衛
秋葉源左衛門

覚

一 御城絵図府内絵図其外御曲地境見合ニ申
度候ニ付右様秋田ニ而写取可申哉ニ候旨兼而相伺
候ニ付先達而見申度候

一 秋田ゟ之道中宿々道程并東表迄代々参勤
之節御泊御休之宿々名前承度候

一 秋田ゟ之道中一節之外ニ往還何ヶ所有之
越承度候

一 御曲輪并秋田家来中用人秋田御城代名前ゟ出
付見申度候

一 秋田ゟ居城之外城代等之儀承度候

右之通当分御内々得早々承度候

已上

九月五日

覚

一 御城絵図御領内絵図府内絵図国分写元可申
事

一 御城附知行高并新田高有之候分之事
一 御城附武具米穀金銀有之哉之事
一 御朱印之寺社并除地有之分之事
一 公儀御関所有之所之事
一 御領分之流并渡 公儀御人有之哉之事
一 三ヶ年以来出入勘并浮役等之書付可被差出候事
一 御家中分限帳役付等御差出可被成候事
附 地形所務米麦之諸取ヶ書加可有之事
一 羽州城之数秋田ゟ右之城下并京大坂江之道程如何程有之哉之事
附 相定候道筋之外近国江之通道有之哉之事
一 秋田ゟ御領分境東西南北江道程如何程有之外并他境江道程之事
一 御領分毎岩何ヶ処宛有之哉并他国江之口留番所何ヶ処宛有之哉之事
一 類族有之哉之事
一 御領分中鉄砲数之事
右之通御書付可被差遣候以上

九月五日　戸田三郎五郎様

佐竹源次郎殿　御家老中　斎藤佐左衛門

一　右御届候ヶ条之内御答ニ不有之趣之別帳御掛ニ見せ候ハヽ其身一御城附ハ知行高新田出高之御届御城附武具米穀等之儀有之候之御答御所ニ鉄炮数之変改無之旨ニ付宝暦年中御届付候御届ヶ条御答之趣ニ而候、依之様ハ御国目付御出之節御ヶ条御届之趣書付ニ付御請御知らせ可被成候之趣ニ申来候

一　御城附武具米穀金銀之儀之変
　　並郷中附武具米穀金銀之御届

一　御領中鉄炮数之変
　　是ハ未ノ十二月御書出シ之通ニ御座候
　　高二拾萬五千八百拾八石

一　出羽国雄勝郡　七拾ヶ村
一　同国平鹿郡　七拾ヶ村
一　同仙北郡　百卅六ヶ村
一　同郡河辺郡　四拾壱ヶ村
一　同秋田郡　百羅壱ヶ村
一　同山本郡　六拾四ヶ村
一　下野国河内郡之内　八ヶ村
一　同芳賀郡之内　三ヶ村

右拙者領分六百三拾九ヶ村寺社方並御役処鉄炮不持之者共御座候、依而自今以後無御鉄炮不持仕候者共数多郷中村々百姓共之内五人組方ニ而所持仕候郷中ニ候

出羽国秋田郡久保田町売買鉄炮

一　鉄炮弐拾挺　玉目百目　一　同拾挺　同三拾目　一　同三拾挺　同拾

匁　一　同弐挺　同六匁　一　同弐挺　同七匁　一　同弐挺　同弐匁

一　同七挺　同三匁五分　一　同卅九挺　同三匁　一　同弐挺　同三匁

右鉄炮九拾六挺町人共所持仕候、右ハ拙者領内久保田町売買鉄炮町人共所持仕候、居城鉄炮二而売買仕り穀生抔仕候、又ハ売買之所継親子兄弟之御座候九拾余人之儀ニ而前々之者共ニ候、以之而町年寄五人与之ニ而面々無御座候、尤年寄役中ニ付差出し置候者何様ニも御座候

不致御付届町年寄五人ゟ鉄炮持主不知分自然取置
中ニ而鉄炮不持之町人無之様ニ為致吟味候様ニ可
貞享五年辰六月廿日　御名
藤堂伊豫守殿
加藤出羽殿
右ハ貞享五年中鉄炮改之節ゟ出候上ニ而猟師中於
江戸甲斐并武蔵國村々御改被成候趣ニ付御領中鉄
炮数之調書差出し候様江戸表ゟ申来候
但当時ニ至候而ハ関八州之外鉄炮之調ハ無之由難
御領中ハ　御代々様年々之通差出候ニ付秋田ニ
調ニハ不及候事ニ而御座候ニ付其段申遣候事
（享保二年之）先年之儀ニ御座候故候趣

一　鉄炮改之儀向後ハ関八州ハ貞享四年ニ御改被
成置之鉄炮改之儀ハ不申旨被仰出候
但猪鹿多田畑を荒し候ニ付而ハ不及御改御料私
領寺社領共ニ月切ニ極置鉄炮ニ而為打可申候

一　右之通鉄炮改之儀ハ不申候得共
従江戸十里四方ハ猟師たりといふとも一切ニ鉄炮不
上候事
但猪鹿狼多出田畑を荒し人馬ヘ掛り難儀
ニ候ニ付而鉄炮改之儀ハ不相成候間可申付

一　関八州之外ニ至候ハ鉄炮改之儀ハ先年被仰渡候通ニ差出シ
候事ニ候ハハ可申付候　尤猟ニ無之候様ニ御料私領寺社領共
急度可申付候事
右之趣可被相守者也
享保二年酉五月
此書付之趣可有其心得候　并上方ハ尚ゟ御沙汰候以上
右廻状無遅滞順達留り方ゟ可被返候以上
五月四日　大目付
御連名
留守居

一　秋田ゟ御届之事ハ同日付寛延九月廿日御見聞之趣以書付

赤星ニ付若年寄様式部少輔様御出黒田甲斐守様
岩城伊豫守様西尾隠岐守殿土屋出雲守様御出
御挨拶有之
義格公御對面御無合御料理御心無有之候得共御
所ニ付御餅菓子御吸物御酒ニ進候段御挨拶為
御挨拶御座候之
一 九月十五日若衛門殿ニ而無據候ニ付御家老渡辺備後
小野崎権大夫桃沢半左衛門御見舞為太刀目録持
参ニ而御代香相勤申候太刀目録ハ御思召ニ付遣ス
御所同見小川刑部右衛門
一 同十八日若殿御目付衆ニ而城御暇ニ付御祝儀之
一 十月朔日両御目付衆御招請ニ付御客御坊衆御
縁類之ハ御招請無之方菓子御中合御入候
但此節御揃御出入御旗本
御醫者衆若年寄様御文字式部様御出入候
一 御目付衆御取扱先年右衛門殿御弁右
衛門尉殿御勤被成候御印御ケ様之候御目付衆御下
之候ニ付御間所合之所ニ上使御目指之御馳走
ニ付御料理二汁九菜
露之御料理小謡七大夫地謡人
御家老御書院二番御用人御番
御給仕御諸役御道具役御番御取次御刀番
御小姓御茶同
一 右御目付衆御家老計義格公若年寄
様式部少輔様御自身御引着
一 御使御口上御挨拶有之
一 十月二日御勤番若年寄様御見舞
一 右御目付衆近日秋田へ御着ニ付根本西右衛門ヲ以
御進物御家来入念挨拶
一 十月二十日明七日若年寄秋田へ御着根本
西右衛門御使者ニ而御見舞小野崎権大夫
御家老御見舞

一去ル同日付ニ而十月廿六日御發足ニ付来ル二日ニ右ノ附役者
溜間ニ而伊達〈御勤役〉萩庭市内と申ニ而
一伊達市内義御暇被仰付候ニ付御嫡子御部屋右衛門殿へ被為候、
御機嫌御伺ニ而御敷物ニ而御使者ニ而菓子一組鮑
一折充と申之
一去ル御同日付ニ而御屋敷ニ付御道中御附人ニ被仰付候御役料之
依而幸ニ武蔵国浦和ニ而御宿有之、右之御用相勤是迄ニ而
自然御用向も有之候而於途中ニ御附被仰付候ニ付今日ニ而
〈御留守居共ニ此節も御申〉〈御同日付〉石井嘉右衛門〈御勤役〉小田刀ニ御継候旨右衛門
〈本道〉神吉道磨〈外科〉岩永龍甫我
右ハ文代りニ而相揃候ニ御目出度候之ニ
一今日御同日付ニ而御發足秋田へ御下り之儀被仰、但馬守様
御留守居下山田新五郎ニ而御届ニ相成候
一七日晩粕谷五兵衛ニ付御止宿ニ付〈大津ニ而御継役〉宿継候旨御使者ニ而附進物在
一十日御安着御見舞御飛札粕漬小鯛一桶御不棒一箱

幸
（虫）折御宿と申ニ而續石井嘉右衛門勤之同十三
日御飛札并粕漬鮑一桶干菓子一箱充院内宿寓
と申ニ續石井嘉右衛門ニ而山田部継候右衛門勤之
〈但御発田三ニ而〉〈御附道中ニ而〉
一去ル同日付ニ而去ル十四日院内へ御着之旨御注進有之ニ而直ニ御見舞
御飛札と申之
一両御同日付ニ而十月廿二日御城下へ御着之旨御注進付
右御見舞十一月四日御飛札と申参上御使者ニ而
御差上ニ而先之飛札下へ御上之御事之旨也
一御城嘉嶺御奉書ニ而御病御知十一月二日御
日付也
一御領内御巡見ニ付御家老と申但久保田ニ而附置有之
右十月廿日御日付ニ而御飛札御使物在〈但久保田二日ニ抜〉
諸右衛門殿御家向ニ付御供廻り上下合五拾壱人
家老壱人　用人壱人　右筆壱人　侍四人　同付壱人　組
方壱人　歩行弐人　料理人壱人　足軽四人　中間又下共十

八人 外ニ江戸ゟ御供ニ而

三宅兵庫殿御供廻り都合人数四拾四人

家老壱人 用人弐人 賄方壱人 右筆壱人 徒士人 足軽三人

中間又内拾弐人 外ニ江戸ゟ御雇被下

一 十月七日御立 粕壁御泊 八日 小山 九日 氏家 十日 芦野 十一日

矢吹 十二日 本宮 十三日 幸 桑折 十四日 湯野原 十五日 山形 十六日

尾花沢 十七日 金山 十八日 院内 十九日 湯沢御昼 横手泊

廿日 六郷御昼 花立御泊 廿一日 刈和野御昼 境 市泊

廿二日 戸島御昼 久保田御旅館へ午刻御着

一 小田野縫殿右衛門 石井嘉右衛門 神谷石原磯八

肴我四人共御発駕之日ハ御先之被差立御泊へ被掛

御目付気道中御差図御供分御供ニ付御右衛門

東門縫殿右衛門儀ハ御泊々々御機嫌伺罷出門

医者ハ御用無之ニ付ても被召出候御附

但院内御昼之節 大山因幡ゟ為御祝家来ニ使者以御近使

八左衛門 近衛 新右衛門 宿所ニ差出 御着ニ付

一 熟柿一籠 白熨斗 院内御止宿へ因幡方ゟ進上

一 塩引鮭二尺 右院内御宿へ因幡家来外平次郎肝煎ヲ以

進上

一 粕漬鯉一桶 右同所 梅津半右衛門ゟ肝煎御進

上

一 御菓子一棹 御重 白熨斗 湯沢御宿へ佐竹渋江ゟ進上

一 蒸御菓子御重 白熨斗 横手ニ而戸村十太夫ゟ進上

一 佐木勘解由 湯沢ゟ江戸御関会請取御伺ニ而御近

付ニ被成 為御用被下付御出役之節訳提刀ニ

昇格諸人百迄出迎 候久保田ヘ出御供ニ

一 年元小四郎 御宿 不振請取 差出御用 来勤 院内

御出迎之 枝深御茶屋之御迎 迎ニ付 被久保田之

出御供仕 見動右衛門 御久保田御着 御境御止宿

之 迎二 来 御供 御中屋之 被 御茶

川南右衛門 大宮民部 御 御四人之内

院内之 御近之 御供 候之久保田之来勤

一院内ニ而御供中為御馳走駕籠并挺桐油等之為
雨覆ニ掛ケ久保田迄用意之申候
但御家老衆御用人壱人江加之舁夫挺四人宛并
人院内ゟ久保田迄御届ニ為差出御馬加之御貸加之
并ニ御足軽中以四方衆人ニ而世話役江申付
一御貸夜着蒲団之義院内ゟ御泊々迄ニ而為宿
主ニ而世話役用所御一方衆人ニ而四人江申付
一御泊御座所等諸事御申方御一方衆人ニ而会四人ニ而
新役御中間様衆人小頭壱人并添肝煎之者四人
ニ而三組宛御座所之御座并新役肝煎相勤ヶ
ニ而嗣色役相勤
一自然御飛脚為御用御中間三組六人ニ而肝煎之者
御座為相勤候
一大番頭中等六人院内ゟ之御泊御座敷等之
操挑御墨守役之者之
一御機嫌之人御厨并ニ添壱人和ニ而舎挨衆人操挑

一御一方七人宛之並ニ新ハ
一御足軽三手人程残役壱人ヘ挨人ニ而
一御茶屋杉野利ト福田休斎吉御林清御時計坊
之柏木休蔵白川伴孫杉野林孫古御茶屋之かり
之新之石手挑并新候
一横堀役橋岩崎屋大内屋次川役橋神宮寺宿
并宿屋役橋宮崎屋中ノ屋手越後屋等
人御足軽三人並ハ五人ニ而一毛并而駅場御用御傳
事之出之ハ久保田ヨリヨリモ差遣もの善清奉行
御休憩先而申候毎御目付氏御本陣御座敷
并ニ御召之外御家老衆御荷物之衆並ニ申付
一年寄ヨリ御中屋ニ而御挨御用向御頼
御一方御人ニ而并之挨申付候
一年寄村ニ而御添之出御中間并人出添御目付元
御先詰并御荷物之人御中間等壱人ニ而附御小屋
御表門之并番内御申候

一年寄共御印遣ニ而罷在候通　　岡本又太郎
年寄之佐竹中務　御国書取ニ出候　差添へ出ル　御奏者番
年寄之梅津半右衛門　年寄並　一大番頭　大小姓頭
右同　寺社奉行　右同　御小姓頭
右同　三奉行　右同　御兵具奉行
右同　御供番　右同　添役人
右同　御武頭　御番頭兼之　白土嘉右衛門
渋江左衛門殿御家中御つかひ出ル　右同　大和作左衛門
三下兵部殿日野
年寄之出仕ニ御使ニ出候　石井新右衛門
御家中ニ而相勤候　小田切縫殿右衛門
取次ニ而罷在候出申候
左郎出ニ付御案内仕候

一年寄衆様ヨリ吉成無之先御張之通遣　村之中
御掃除化粧御番ニ申付候人々御付
御番頭　森川権右衛門

一年寄ヨリ御中使之者遣ニ御卿吉成無之通へ御亀町御
通渋江左衛門殿ニ而ハ佐竹六郎殿屋形三郎兵衛殿ニハ（○田中三左エ門前大門ノ東根小屋町ニ通）
佐竹淡路殿屋形ヘ御名代横田通ニ家ニ而御兼三国トメ
出口ニヘ御出候者之人々ニ而饗応之以御織部小以ハ
其下御名代権右衛門殿其下家老年寄村々出ル
一支御国付人秋田ニ御下リニ付
御朱下御写買馬買来わこ御先触御宿ニ而御奉行ニ
ニる右之通相違之ス
御朱印写
馬五疋従江戸羽州秋田迄上下ニ而出之彼地御国
秋田渋江左衛門ニ申付られ之者也
元禄十六年十月廿日　　大府印
同
馬五疋従江戸羽州秋田迄上下可出之是ハ彼地
為御目付元田三下兵庫ニ差遣之者也
元禄十六年十月廿日

大府中

覚

一 御朱印伝馬 七疋
一 駄賃伝馬 拾壱疋
一 賃人足 拾壱人

右者秋元但馬守殿御家来秋田為御用向付明七日江戸
今出立ニ付右之通人馬無滞上下可差出之候此間休泊
来付差添遣候間府中より無滞差継可給候以上

未十月六日

秋元但馬守内
清水新吉

御伝馬府中

覚

一 御朱印馬 五疋
一 賃人足 拾人
一 賃伝馬 三疋
内壱疋 駄賃
〆人数拾人 馬八疋

右是ハ六戸因三郎三様御家来秋田為御用向付明七日江戸
今出立ニ付右之通人馬無滞上下可差出之候此間休泊
付差添遣候間府中より無滞差継可給候以上

未十月七日

三因三郎三様内
吉田京原右衛門

伝馬府中

写

一 御朱印 馬 七疋
駄賃伝馬 拾壱疋
賃人足 拾壱人
秋元但馬守御家来様御下

一 御朱印 馬 五疋
駄賃伝馬 三疋
賃人足 拾人
三因三郎三様御下

右ハ羽州秋田御用向付明七日江戸発足明七日江戸へ罷立
候間右人馬無滞相達可申候

御乗物下ニ而突出通元禄通　御乗物下御使ニ可被候
人馬之泊休ミ之由申付候乗物出通元禄通以上四通ニ
壱万石誠中ニ仕差出入ニ無用之旨落ニ而仕以上

元禄十六年未十月六日　江戸大傳馬町
一了道勘兵衛

手代分

羽州秋田之宿次
問屋中

一院内ニ而荷物之馬給分之高札古ク成候文字見へ兼候ニ付可然直之御奉行大縄与一左衛門殿深谷助右衛門へ
一大宮源吉ニ判形為書替申候
一院内御関所之番人ニ御通ニ付而御積付之當不申ニ付御断可被申上候

一十月廿六日昼出立御国付所川小屋ニ而御泊
上下五拾壱人内積荷人江戸分
小宿ニ而十月廿六日之泊
秋葉伴右衛門殿

一上下四拾五人内積荷人四拾八
内江戸分人拾八人
戸田三郎兵衛殿

一御通殿并ニ而家老ニ而御人附候分御足軽共御中間其外下共ニ付而御馬ニ而之取扱候
但通殿御書院並ニ有之通り之板屏ヲ立一ヘ
廊下ヲ無ケ通候ニ付之御大路ヲ付ケ候二方之通へ
相在

一通之長屋ニ而方ニ付附置候ヘ諸役人之者御加り之者共不残
諸人々ニ新炭馬飼料不足出

一御通殿表門裏之板塀十四ケ所ニ而四ケ所不残
居置出火之為水高桃灯蠟燭申二渡足軽番
夜詰人不寝番所詰来申二ケ通之

一大番二人ニ而御手判出有之仰候
一表御門ハ御目付衆御出入計開之
一通之小屋御番大目付衆御出入ニ而大目付御方之

八人ツヽ出張致候ニ相成

御先手頭
与頭
小笠原市左衛門
石橋弥兵衛門

一 御山内ヶ所之断有之候ニ付而之御番門警衛

三番手頭
与頭
本多兵衛門
鈴木与五左衛門

小普請支配
平元小市郎

御小性組
鈴木弥助

御物頭
御目付
土屋右衛門

右者当日御付之御防御用之巡見人も御出張致候

一 御山内之節も御供仕候

御先手頭物頭
白土右衛門
大久保民部

三番頭物頭
落合川西右衛門
森川権右衛門

大和田右衛門病気代也

右之通御山内ニ詰候家来共人数駆付候様致候
役人者勿論同心ニ至る迄右之通天德寺
御組御手水屋ニ而右詰所相詰候人数ハ御供致候人
ハ御山内ニ相詰候方一出火之節ハ右之人数御
山内ニ相詰候御手当之義ハ右之人数を以一方
ハ人々御手代其外支配之者共同人数を以一方
之見廻り之者共御手当之者共相詰候上仰付
候ニ付右之者人数相詰候ニ付相詰候毎
御山内ニ御手当之儀候間右之方江人数相詰
出火之節ハ右場所一乗院宝珠院鱗祥院三ヶ
所江心懸ヶ可相詰候

一 但右御供ハ平元小市郎鈴木弥助土屋右衛門相勤
御物頭四人之者相詰申候ハ右之見張之上方ハ相
人数ヲ加候

一 御先手頭相詰候挑灯下半分上白下ハ黒塗
三番手頭相詰候挑灯下半分上黒下白

御茶道　川井允意　　森川権右衛門代り　村山平八
右ハ清右衛門殿御小屋大清院ニ御作り
御勘定　器内言近　　是ハ石黒一郎兵衛代り　吉崎七右衛門
右ハ三郎兵衛殿御附
右者共ハ三方御小屋ニ居候御近習足軽并四人
内四人ハ小頭御附人足御一方ニ振人ツツ被下置
ニ而渡人ハ手代御用ニ而御出ニ付吉成茂兵
衛ニ而三郎兵衛殿清流石衛門ハ五右衛門小屋清七屋へ入
置

一 五右衛門御目付府ヘ御定仕舞ニ御小性振六人御一方八人ツツ
白土八九郎　小林掃部　伴茂右衛門近　吉田市之助
大越歩三郎　小泉茂七　滝部伝四郎　岩崎市太郎
右ハ清右衛門殿附
平井喜六郎　桐沢文右衛門　古橋清兵衛　横田小兵衛
片岡友弥　林文蔵之助　中村武助　村瀬市三郎

一 右ハ三之丸御殿附御当番日々御所ニ付不残出ル
一 御家老分侍之字仕振付人御一方六人ツツ　梅津半右
衛門小姓之内六人ニ而下三ノ御殿へ清江内藤小姓
三人岩本与三郎小姓之人当番ハ右之通り上下三人出ル
日々御断
一 御清以下ハ御町分家仕ニ罷出申候
一 十月廿二日五右衛門御目付府久保田ヘ御下り付ニ付御使者
信右衛門四日久保田御見立御出御江戸御前中
様ヘ御披露有之候処御様ハ御披露無之五郎左衛門ヘハ
御披露ニ清右衛門殿御小屋ヘ呼出被申渡之
但近来ハ江戸様ヘ窺江戸表ニ而御伺之上被仰付
以御目付出雲上ヘ御届之上御申付御用人ゟ申渡
以上
一 御茶道衆承寿教部宗因御掃除坊主以下御人ツツ
毎日相詰候
一 御能来四人ツツ時々右御猶予刻ニ付御申付之御目付近

御學問所ニ並候ハヽ近習出頭御廚所之倉樊柱ニ而一片
五人ツヽ拾人程勤番方ニ當番候六人ツヽ内弐ツヽ者日向之湯殿
方之廷候ニ而三人ツヽ此方之錠ニ附ハヽ水ニ候人足ニ而
ニ付ケ相勤之
但數多之儀抜候ニ而相應依之御目附衆候錠方
御門支之儀番人下達ニ依而之番不役ハ之書面
ニ應ル請ニ仲村殿中ニ而手代者ノ申付之御用
之節諸色其外ノ所見ニ勤申候御出勤候
陶ニ其後ハヽ毎ニ三ケ月ツヽ此方一同支度宜候支

一 從川南右衛門与組者之人自立右衛門与而組者之人
毎御出仕ニ請ツ而番之書付之陶ニ前ニ申候附置候
周者勤候
但清書相改候ニ而之番人ツヽ申番和役支配之
し附置候

一 毎之出庭之庭掃除申付ル

御勘定役 吉成藤多濃
大森権右衛門

御目付 石井嘉右衛門
切米取役 小野寺繼右衛門

右之者共御目付衆ヨリ御附添相成候付久保田御門迄爲
中之御礼日時之見之存請之相勤ニ相成候

一 御道師外科針醫同道ニ而其身御心持折々御見廻可
之御旅ニ相勤候

一 右之者共役御大工御無役御陸尺張附之検使来
ニ附候ニ付請候

（朱）元ノマヽ　元ノマヽ　検使カ

御下屋敷渡之進物左之通

一 御太刀一腰 御馬代 黄金 壱枚ツヽ
二種壱荷

一 干鰹節壱箱

一 鯛 拾ツ

一 鯛 弐ツ

一 数子二ツ

一 鯣 二十ツ

未十月廿六日久保田御用番
御目付衆ヘ某部右衛門ヨリ相渡

未十一月廿日御進物ハ御用番
御勘定之

下御屋敷ニ御入用申候

使者 日下部

右之品姫様御婚礼ニ付御取扱十二月廿二日
差出候御使者ニ而御座所へ差上ル

一 御反物二疋
　御襟巻弐疋
　御絹手拭弐疋
　松之葉菓子四折
　鯣二千ツヽ

従江戸表ニ右之御帯被成下候御承
知ニ被成之右衛門ヲ以川村七左衛門ニ被
仰下来十二月下旬之通差上申十二月
都合如斯ニ候

一 御茶壱壺充
　色壺斗

従口切り之茶江戸へ之十二月十九日差上候
同日付ニ而御右之御使者ニ而差上ル

一 砂糖漬壱曲
一 粕漬蚫壱桶充

右は先達而差上之御所江ノ鮭鱒
大小姓潜川八左衛門御使者ニ而被下十二月
十八日之使者ヲ神田ニ而差上

一 御時服三充
　緞子壱壺ツヽ
　鯣二千ツヽ

是迄来ノ御様ニ十二月廿日之御使者
之御蔵持田治部卿ヲ以差上之

但御家老へ銀五枚ツヽ御用人へ銀三枚ツヽ被下候御取次へ
引足候二枚ツヽ申口ニ而金百疋ツヽ被下之
公御取所ニ而御通部

一 御太刀一腰
　黄金御馬代
　二種壱荷

年頭為御祝儀御使者
右ハ多賀大炊頭ヲ以被下正月元日御礼
同日登城

一 細鮭塩引二尺ツヽ

御献上之節正月廿二日之御同日御
之飛脚之物以ヲ以差上之

一 蚫三千充
　尾張様御家督初而正月二日之登城之節御祝儀
　之御取扱従江戸御献上之節正月十二日之御
　之飛脚之物以ヲ以差上之

一 鯣二千充
一 粕漬蚫壱桶

角館へ御役人之御勘定奉行申二月
二日之使者右同断
江戸へ之飛脚ニ而差上之御使者諸

一 新腊肉壱箱宛　　本多能登守殿え
一 子籠鮭塩引二尺ツヽ　　御勤之上御持参之品以御使者
　　　　　　　　　　　去ル二月十八日
一 鯛二十枚宛　　去ル二月御役儀之節被進之品
　　　　　　　　以飛脚御使者
一 外之草押餅十枚白押餅十 江戸酒壱斗入二樽ツヽ
　真鴨壱掛宛 右之少分之品ニ而此度御用向之節不分
一 露壱箱宛　　是ハ先達而進物之品之節御用
一 塩新子三ツヽ　　周之為遣候
一 塩引鮭二尺ツヽ
　　御下後御家中分進上候事
一 御太刀一腰
　御馬代
　白銀壱両　　　　佐竹中務

十月廿四日付御役後御目録ヲ
以差上ニ而御太刀御馬代ニ而御返之二種壱荷之御目録
右之礼申候旨御使者ニ而是ハ御礼之事
一 右同
一 右同　　　　　　岡本又左衛門
　　　　　　　　　梅津半右衛門
　但右同断
一 右同 但二種壱荷　　　　渋江内膳
　去十一月　江戸表下着付当方ニ而為旅宿旅籠料
　二百疋ツヽ被下御目録之通御太刀馬代ニ而
　返却ニ而二種壱荷斗差上候為御礼之使者
　申達候
一 新鮭一荷
　右ハ久保田ニ而御帰城之節ニ而被下御饗応
　之御挨拶御申出御祝之儀ニ付被下為
　御褒美之使者ニ而付為御礼御両所へ出ル　　佐竹左京
一 二種一荷
　右同断　　　　　　　　　佐竹淡路

一　右同断　佐竹六郎

一　右同断　戸村十太夫

一　二種差上　荒木筑後

六郎儀ハ大鉄砲御掛り御見習ニ付為御機嫌伺罷出
右之伺候も相成御目見罷　直ニ退出極月朔日ニ付何茂揃
始ニ御目見罷　大山田鶴病気ニ付不参

何茂御菓子並一統元
十月廿四日初而当番ニ付御ひや〳〵
御目見被仰付目録差上之処
御取合有之

御目見之面

〃　石塚孫太夫

〃　宇都宮帯刀

〃　小野崎市太夫

〃　伊達弥三郎

〃　向源右衛門

〃　荻本左衛門

一　寺社奉行
　藤原彦太夫

寺社奉行大番頭
大小性頭之十月廿四日
若者一統ニ而自分目録
初而御目見被
差上之処御取合

一　梅津内蔵允
　中川宮内

大番頭
　岩堀兵庫
　梅津彦太夫
　梅津藤内
　岡田金太夫
　西尾勘兵衛
　大越重兵衛
　渋江十兵衛
　細井伝右衛門
　玉生八兵衛

大小性頭
　大塚九郎兵衛
　小野崎隼之助
　黒沢伊兵衛

右両人出火之節
早速罷越候ニ付
被下物之御断

御河岸町
宇留野左助
岡　半之丞
〃　野尻徳之進
小普請支配
榊原六郎左衛門
御先手
浅井理左衛門
〃　村山五左衛門
〃　石川縫殿之丞
御徒頭
酒井吉之丞
御鑓奉行
大沢源之丞
〃　宇佐美久大夫

一　極月十二日初而御寄附之節
　　右衛門尉進上物申上候
　　佐竹羽監
一　生肴一折
　　右ハ源右衛門ゟ
　　　　向源右衛門
　　右ハ役人之御使者ニ付蔵善院様之進上候

一　雉子二羽先日御出座之節　　一番之中之郎
　　御鷹献上
　　御鷹之羽先日御出座之節　　雑木島治兵衛
　　　　　　　　　　　　　　　　　昆三郎右衛門
　　御囲人ゟ上物　　　　　　　　白土弥右衛門
　　　　　　　　　　　　　　　　　瀬川与右衛門
　　右之通ニ候　　　　　　　　　　桑川権右衛門
　　　　　　　　　　　　　　　　　大久保民部
一　鶴焼付弐人　御正月元日御出座之節年賀又右衛門内藤
　　申右衛門ゟ　　月　日
一　鰈壱枚　右衛門方ゟ国役御用取次之候　正月
一　鮑二千　瀬路六郎十右衛門ゟ上
一　同所御流浪ゟり鰈二枚国府ゟ上
一　　御徒　佐藤右衛門十日出之久保田出足十一日之上居
　　松浦同所ニ年寄中ハ御老中ニ御家同人
　　越前ニ付御年寄衆ニ但馬守様ハ小川刑部左衛門同
　　右御上中延御届申候御届候ニ御用番ニ御使者

可被相糺候得共御目付之者下知儀之御座候
方ハ御座候得共御届等ニ付六本木御家来役当様
被仰渡事故刑部少輔家来又右衛門同役共ニ而
其外様之被成御座候
一 同日御家来又兵衛ニ被申候者御目付立合ニ而御申段
御座候旨申上候者ニ難有奉存候
一 十月八日御老中衆ゟ御目付衆ヘ家来之者御呼出
廻状被相渡候御座候由
一 十一月十六日露姫様御病気ニ付御機嫌伺として御安全ニ被遊
候ニ付御目付衆ヘ御届御聞済之上御出之候
一 同廿四日江戸大地震ニ付
公方様御安全ニ被為入候ニ付御家来共御届
申候御目付衆ヘ御届札
一 同廿六日御出座御姫様方ヘ御使者ヲ以御菓子一折
被下候大鎧辺ニ而御巡見被遊候而御座あり
一 十二月十二日御目付衆ゟ御呼出ニ而寄合与八殿也

此御達之上御老中ヘ御出之節去ル二日ニ御届被成 明六
刑部少輔家来但馬守様ヘ相渡
但御領内之三浦与八と申者ニ為召捕候者委細御届ニ付
召捕候御目付衆ニ而十二日迄ニ相違無之相済候由ニ御座候
之旨御目付衆ニ而御出席ニ而御沙汰之御事候
御座候趣
屋形様も御在府之御事ニ御座候
一 同十六日御目付衆横田様御渡候、小川
刑部少輔家来江御渡候御座候、三浦与八殿儀
書付ヲ以申上候趣ニ御座候
覚
三浦与八
右与八事継母江孝行ニ付其段御同付ニ御褒美ニ被下置候
極ニ付去年三月十日於其不死四郎五助中付
御褒美被下候三郎兵衛与申者共ニ
十二月十四日

一 右之者共儀外沼主殿頭ニ而立入候ニ付相模守様
之家来人かさ之御奉公ニ而相勤候由ニ申ニ而去年中ゟ月々神
請ニ而月々御扶持月々ニ而召抱置候処去ル二月 御役
元陳無之ニ付御免被成候御役付
右之趣御書付御奉公之儀大海之同付衆へ申達
但之晩相之刀方喧嘩之落合ニ付其之国人下り候ニ付
三之通御届御請在

一 同十六日秋田御免飛脚ヲ以て申渡ニ而御達
御奉公之儀遠慮ニ付候下候

一 元禄十七年正月十日為年始之御礼路之候
者共之同付衆之嫡子様方へ御礼申述候

一 同廿日之者共儀年始之御礼相済儀ニ候下候儀
候者伝右衛門来ル四月久保田足令上着
お久保田尚之同付衆ゟ為御書之ほど御進書
之申達候

一 同廿三日京ゟ着鯨着申ル右之同付衆

御暇之儀被仰付候之上被成候間為見舞候
者共ゟ進候

日本政府図書
内閣文庫
紙數四拾九枚
四九
内閣文庫
国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan